

# 児童発達支援ガイドラインによる自己評価について

## 事業所評価

2022年 1月  
にこにこハート

児童発達支援の質の向上と支援内容の適正化を図る為、  
児童発達支援に基づき実施した自己評価の結果を公表致します。

回収率：職員 100%（11名/11名）

### 《調査からの読み取り・改善点》

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	訓練室のスペース、職員の配置人数は適切である。生活空間は清潔に保ち活動しやすいように配慮している。	毎日の清掃、玩具や室内の消毒実施。
業務改善	利用児童それぞれの目標設定・振り返りの実施。毎年1月にホームページにて公表している。月に1度スタッフ会議の実施、イベントの立案や日々の支援方法の確認提案を行っている。	月1度のスタッフ会議の継続。毎日のスタッフミーティング実施。日々の業務で報連相の徹底。
適切な支援の提供	計画書の更新、作成にあたって保護者面談、スタッフ会議の実施。日々の生活での情報共有を心がけ、普段と違う変化に対し迅速に対応できるようにしている。プログラムが固定化しないよう、月ごとに担当者を替え様々なイベントの立案を行っている。	日々児童との関りの中で普段と違う変化に気づき、常時職員間で共有し、連携出来るようにしていく。連絡帳や送迎引き渡し時にご家族との情報共有を行う。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	他機関と電話やメール文書にて、定期的なモニタリングの実施。自事業所での生活の様子や他機関での様子の共有を図っている。	引き続き相談員や他機関との連携を図り日頃の様子や課題点などの共有をしていく。障害のない子どもとの関りについて、現時点では実施の予定なし。
保護者への説明責任等	連絡帳やLINEにて保護者からの要望や生活上の課題点などその都度対応している。説明が不十分と思われぬように工夫して取り組んでいく。	毎回利用時に連絡帳の活用、あわせて送迎時の保護者との会話や電話、LINEでやり取りを引き続き実施していく。
非常時等の対応	虐待・感染症・緊急時などの各マニュアルの提示、定期的な研修やチェックリストの実施を行っている。	事業所にて災害時に備え避難訓練年2回の実施。各委員会を行い、事業所間での情報共有・連携を行う。